



上向台小だより

4月号

西東京市立上向台小学校

令和5年4月6日

<http://www.nishitokyo.ed.jp/e-kamimukoudai>



令和5年度のスタートにあたって

校長 酒見 裕子

春のやわらかい光が溢れる中、上向台小学校の令和5年度がスタートしました。

お子様の御入学、御進級、おめでとうございます。

今年度は、130名の新1年生を迎え、児童数735名、23学級での出発です。この度、町田元彦校長の後任として本校に着任いたしました酒見 裕子（さけみ ひろこ）と申します。

これまでの上向台小学校が築き上げてきた伝統と特色ある教育活動に加え、新しい時代が求める質の高い学びの実現に向け、教職員一人一人のそれぞれのよさを発揮できるようにするとともに、保護者や地域の皆様と共に、子供たちを育ててまいりたいと思います。

さて、上向台小学校の教育目標は、「人にやさしさ 自分につよさ 生き抜くかしこさ」です。この教育目標の実現のために、様々な教育活動を「一人一人の子供を主語」にして捉え直していきたいと考えております。

【「一人一人の子供を主語」にする学校を目指して】

これからの予測できない未来を生き抜く子供たちには、一人一人が自分のよさや可能性を見つけ、多様な人々と協働しながら、様々な課題を解決していく力が必要です。そのような力を子供たちが身に付けていくために学校はどうあるべきか、常に問い続けなければなりません。

子供たちは一人一人学ぶスピードも、興味・関心も、得意・不得意も、認知特性も違います。

様々な子供たちがいる中で、教師による一方向の一斉授業のスタイルは、異なる一人一人に合う学びを届けることには限界があると感じます。

このような背景もあり、一人1台端末を活用して、自分なりの課題を立て、個々のスピードに合わせて、自分のペースで自分から学んだり、困ったときには様々な人と対話し、共に学び合ったりすることが求められています。

これからの教師に求められるのは、学びの主体である子供が、自分自身にとって最適な学びとは何かを、自分自身で判断しながら、自立した学習者になることができるように支援することです。

一人1台端末の活用で、学校での学び方は、これまで以上に子供を主体としたものに変わり、子供の自己選択・自己決定の機会も増える授業となっていくはなりません。大切なことは、一人1台端末を教師が教えるための道具ではなく、子供が学び、考え、表現、発信するための道具として使っていくことです。

子供たち自身が自らの学びに向かっているよう、教師は学びの伴走者として寄り添い、一人一人の子供を大切にしていきたいと考えます。

全ての子供たちの可能性を最大限引き出すことを目指し、学習する子供の視点に立ち、子供たちの具体的な学びの姿をイメージしながら、「一人一人の子供を主語」にする学校づくりを推進してまいります。

また、今年度より、本校は、コミュニティ・スクールに指定されました。

学習指導要領においても、学校の教育活動の目標やビジョンを地域や保護者の皆様と共有するとともに、「社会に開かれた教育課程」を編成し、学校と地域、保護者が一体となって子供たちを育むことの重要性が示されているところです。

「地域とともにある学校づくり」に向け、「できる時に できる人が」を合言葉に、子供たちの様々な学びに関わっていただければ幸いです。

これまでも多くの教育活動に御協力いただいているところですが、ぜひ、これまで以上に地域の子供たちを、学校と一体となって育ていただき、子供たちの豊かな学びや体験の充実に向けて、皆様のお力添えをいただきますよう、よろしく願いいたします。